

## 「授業備品」N059 H. 30. 4. 18「授業評価会を変える」

「主体的・対話的で深い学び」であるから、まさに子供の学びを中心にすえなければならない。そのために解決することがある。①授業前の指導案作成に時間をかけすぎると、指導案の出来栄に目がいき、そこで完結してしまう。②授業者は、人目を気にして、普段通りでないイベント的な授業を行う。③授業研究会は、子供の学びの状況より、教師の立ち振る舞いを評価している。授業も授業研究も同時に変わることが必須だ。

### 1 ミニ授業反省会

これまでの授業評価会は指導方法の改善という大人（教師）だけの会であった。そのため、子供自身が自らを振り返らないため、授業が大きく変わらなかった。こうしたことを受け、学習指導要領第3節2 学習評価の充実では、「児童（生徒）による学習活動としての相互評価や自己評価などを工夫する必要がある。相互評価や自己評価は、児童自身の学習意欲の向上にもつながることから重視する必要がある。」と記述された。

それを具体化する方法がミニ授業反省会だ。このミニ授業反省会は、その後に行われる教師の授業評価会にも活かされる。考えられるミニ授業反省会の方法は次の通りである。①子供のミニ授業反省会での授業評価項目例1を活かした話し合い（「授業備品」N053） ②授業評価項目例2「今日の良かったところはありますか」「今日の課題はありましたか」「こうしたらという改善策はありませんか」 ③授業評価項目例3「アウトプットができましたか」「教え教えられる活動がありましたか」「振り返りの記述をしましたか」 ④ペア学習を行い、全体会でシェアする方法（岐阜） ⑤班学習を行い、全体会でシェアする方法 ⑥ホワイトボードに授業改善策を全員が書き、それを考察する方法。＊普段は、帰りの会でペアで話し合う方法で短時間で済ませる。

### 2 授業反省会（教師）

形式だけの授業評価会は止める。行っても次の授業につながらない。WSは、これまで全教員の意見や考えを集約するには最善の方法であった。だが、その場だけで終わることが多かった。また、教師の動きを評価する従来の方法になっていたからだ。そこで子供たちの手で学びを創造（アクティブ・ラーニング）していくのが今次の指導要領であるので見直さなければならない。

①子供の名前と動きを徹底的に記述し、事実を語り合う。抽象的な子供や教師の動きを話しても、子供の「学び」は見えてこない。そこで、「〇〇さんが、あの場面でこう話した」「それを受けたBさんがこう反応した」と事実を記録しておくことが重要だ。教師が子供の話した言葉を語り合うことで有効的な働きかけを見つけることができる。先ずは、子供の言葉を記録し、「こういう学びがあった」と「見とる力」を付けるとよい。②一人付箋紙一枚（横10センチ×縦40センチ）に成果・改善策を記入し、KJ方法で集約する。子供のミニ授業反省会に連動した教師の授業反省会だ。短時間で終わることがポイントだ。子供たちが授業反省会を行うため、その分時間を短縮するとよい。付箋紙一枚を操作するため、全体会では意見集約がしやすい。KJ方法で大まかな教師の考えを集約し、最後に代案を話し合うとよい。なお、子供たちへのメッセージ（褒めてアドアイズ）を書く（付箋紙一枚、横10センチ×縦40センチ）ことは、必須となる。③ホワイトボードに授業改善策を全員が書き、それを全員でシェアし最後に代案を話し合う。④ワールドカフェ方式（模造紙＋短冊1枚）で、最後に代案を話し合う。⑤従来型のWSで、最後に代案を話し合う。

◎私たちの仕事は、子供を学びのプロとして育てることだ。そのためには、これまでの学校の慣習に縛られてはならない。果敢に変えなければ従来型の指導要領のままの授業が続く。

**\*主体的な学び** ①興味をもって積極的に学習活動に取り組む ②学習活動を自ら振り返り、意味付ける③身についた資質能力を自覚し、共有する

**\*対話的な学び** ①意見交換や議論をする ②新たな考えに気づく ③自分の考えをより妥当なものとする④自らの考えを広める ⑤仲間と考えを深める

**\*深い学び** ①各教科の「見方・考え方」で新たな課題を見出す ②各教科の「見方・考え方」で問題解決をする ③必要な情報を選択し、それを基に自分の考えを形成・伝え合う ④考えを伝え合い、集団としての考えを形成する ⑤思いや考えを基に構想し、意味・価値を創造する ～荒尾第一小研究紀要より引用～

